



新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

特別修学サポートルーム 新聞

令和5年度 春号

あなたはひとりじゃない

キャンパスライフ支援部門
副部門長 長澤 正樹

学生の皆さん、入学・進級おめでとうございます。充実した学生生活を送るために、あえて水をさす話をします。学習や人間関係、就活などにつまずいたとき、一人悩んでもどうしようもないとき、大学の相談室を頼ってください。みんなと同じ条件では同じ結果が出せないとき、特別修学サポートルームをおすすめします。人を頼ること・支援を受けることはあたり前のことなのでから。不安を感じたとき、「私は一人ではない」ことを思い出してください。

特別修学サポートルームってどんなところ？



障がいがあり、主に大学生活の中で様々な困難を抱えている学生のサポートをします。

障がいの種類はさまざま、発達障がい・精神障がい・肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・病弱などがあります。

困難さのある学生に対して、共に考え、サポートしていきます。

一人で悩まず、何でも相談にきてください。

専門の相談員が相談に応じます。

とても生きやすくなった！

特別修学サポートルーム
特任専門員 笠原 清隆

昨年12月に教職員向け研修会にパネリストとして参加してくれた学生さんが次のように話されたことが強烈に私の心に残っています。「日常生活に困難さを抱えることで、どうしてよいかわからない不安な日々が続き、サポートルームに相談に行きました。今まで生活の中での合理的配慮を受けてこなかったのですが、ちゃんと伝えることができれば、周囲もそれに向けて対応を考えてくださいます。今までは、障害って恥ずかしいし、なるべく隠さなきゃみたいになっていました。しかし、きちんと伝えることができれば、差別的な対応もされず、普通の人間として普通に扱ってくださるんだなあという気づきがありました。おかげさまで、とても生きやすくなったと思います。」

履修登録はできましたか。教科書は買えましたか。対面授業には出席できていますか。グループワークに不安はありませんか。課題を期限までに提出できていますか。一人暮らしは大丈夫ですか。ちゃんと食事はとれていますか。誰にも相談できなくて困っていませんか。相談してもどうにもならないと諦めていませんか。もし、困っているようならすぐに特別修学サポートルームに電話やメールで連絡をください。あなたが素敵なキャンパスライフを送れるよう精一杯支援していきます。

困難さを抱える学生とともに

特別修学サポートルーム
特任専門員 田村 諭理枝

風に舞う花びらが目にまぶしい今日この頃です。

新年度は新入生だけでなく、すべての学生が新しい生活をスタートする時期。学年の移行に伴って学生生活は進展し、学生の関心事や取り組む課題は変化してきます。

そのような中で、授業や課題（レポート等）がこなせない・友達や周囲の人とのコミュニケーションがうまくいかない・サークルやバイトを始めたものの調整がうまくできないなど困難を感じることも少なくありません。そんな時は、ためらわず特別修学サポートルームにご相談ください。どうしたら困難さを軽減でき、その人の持つお力を発揮できるかを一緒に考えます。

学生支援は多くの方々と連携し、協働してはじめて支援が可能になります。特に、先生方からは学生ひとりひとりの自己実現を支援する視点から提案していただいたり、相談に乗っていただくことが多くあります。様々な場面で先生方の学生への温かなご配慮やお気遣いに感謝する日々です。

これからも連携と協働で、ひとりひとりの多くの学生のみなさんの支援に努めていきます。今年度もよろしくお祈りします。

ヘルプマークを知っていますか？



周りの人に向けて、なんらかの支援や配慮が必要であること伝える「ヘルプマーク」。ヘルプマークとは、「援助や配慮を必要としている方々が、そのことを周囲に知らせることができるマーク」のことです。（2012年 東京都福祉保健局よりにより作成されたピクトグラムです。令和3年10月31日時点で、全ての都道府県で導入されています。）

日常生活などでなんらかの困難がある方が、周囲の人に「支援や援助を必要としている」ということを伝え、サポートしてもらいやすくするためのマークになります。

実はヘルプマークの対象者に明確な基準はありません。様々な障害福祉サービスには、それぞれ障害や疾患にあわせて基準が設けられていることが多いですが、ヘルプマークの場合、障害や疾患の基準が定められている訳ではありません。

ヘルプマークは、特定の対象の病気を持つ人だけが使うものではありません。

例を挙げると、このような方が対象になります。

- ・ 視覚や聴覚に障がいがあって状況把握が難しい方
- ・ 肢体に障がいがあり自力での迅速な行動が難しい方
- ・ 義足や人工関節を使用している方
- ・ 精神疾患のある方
- ・ 発達障がいがある方
- ・ 内部障がいや難病の方
- ・ 妊娠初期の方



など

ヘルプマークを見かけたら

あなたの思いやりをありがとう

電車・バスのなかでヘルプマークを見かけたとき

お声かけをして席を譲るかどうか尋ねると良いでしょう。

外見では分からなくても、とても疲れやすかったり、つり革に掴まり続けるなど同じ姿勢を保ち続けることが困難な方などがいます。

「お席どうぞ」と自分から声をかけましょう。

駅や商業施設内でヘルプマークを見かけたとき

例えば、電車が事故で遅延して、人が溢れている場合など、突発的な出来事に対して、臨機応変に対応するのが難しい方もいます。

何か困っていそうな様子を見かけたときは、「大丈夫ですか？どうかされました？」「何かお手伝いしましょうか？」と優しく声をかけましょう。

災害時・避難時にヘルプマークを見かけたとき

視覚障害や聴覚障害のある方は、緊急の状況を把握するのが難しい場合が多く、また、体が不自由で自力で素早く避難するのが難しい方がいます。

見かけた際は、安全に避難するための支援・サポートをお願いします。

新潟大学構内でもヘルプマークを身につけている方を見つけたら「何かお手伝いしましょうか？」「お力になれることはありますか？」など声を掛けてもらえると嬉しいです。

ヘルプマークと合わせて活用したい「ヘルプカード」

ヘルプカードとは、援助や配慮を必要としている障害のある方などが携帯し、いざというときに必要な支援や配慮を周囲の人をお願いするためのカードです。ヘルプカードには手助けしてほしい内容が書いてありますので、提示された人は、記載内容にそった支援をお願いします。



氏名	(男・女)
住所	
連絡先	
生年月日	血液型
年 月 日	型 (Rh + -)
※必要は医師の位置してください。 ※急入急出の際に備えてください。	
【医療などの情報】	
障害名	
かかりつけ	医療機関名:
医療機関	電話番号:
	所在地:
	名前:
緊急連絡先	関係 ()
	電話番号:



一人で悩まず、何でも相談に
来てください。
下記に電話かメールでご連絡ください。

特別修学サポートルーム

総合教育研究棟C棟1階 (C113)

※昨年度までと場所が変わりました！

☎ : 025-262-6300

(平日9:00~17:00)

✉ : support-r@ge.niigata-u.ac.jp

